



2025年度 市政懇談会 <木曾地区町内会・自治会連合会>

次 第

[日時] 2025年10月31日(金) 15:00 ~ 16:30

[場所] 木曾森野コミュニティセンター ホール

司会進行：市民部長 横山 法子
木曾地区町内会・自治会連合会 会長 一戸 雅行

○ 連合会長の挨拶

木曾地区町内会・自治会連合会 会長 一戸 雅行

○ 市長の挨拶

町田市長 石阪 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 教育センターの再開発の現状について

【政策経営部】

2 学校統廃合、施設再編に伴う、交通整備、長距離通学への対応、交差点での人の集中による退避スペースの確保

【政策経営部】 【学校教育部】

3 神奈川中央交通の運転手不足と働き方改革による減便への対応策について

【都市づくり部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 木曾地区町内会・自治会連合会 金子 清勝

2025年度 木曽地区町内会・自治会連合会 市政懇談会 議事録

[日 時] 2025年10月31日（金）15：00～16：30

[場 所] 木曽森野コミュニティセンター ホール

[出席者] 町田市長 石阪 丈一

政策経営部長 唐澤 祐一

都市づくり部長 原田 功一

学校教育部長 石坂 泰弘

市民部長 横山 法子

木曽地区町内会・自治会連合会長 ほか10名

事務局 市民部市民協働推進課 5名

司会進行：市民部長

木曽地区町内会・自治会連合会長

○連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 教育センターの再開発の現状について

施設再編で、教育センターの再開発の現状について、教えてください。

【回答】

政策経営部長

市では、これまでの教育センターを建て替えて、子ども・子育てに関する様々な支援を切れ目なく受けられるとともに、地域にお住まいの皆様が利用できる複合施設、「（仮称）子ども・子育てサポート等複合施設」の整備を目指して、検討を進めています。

この検討に当たっては、2022年度から、地域の皆様との「連絡会」を立ち上げ、木曽地区協議会、木曽地区連合会、敷地周辺の自治会・町内会の

代表の皆様に、継続的にご参加いただいております。

ご協力いただいている皆様に改めて御礼申し上げます。

今年の3月に開催した連絡会でもご報告いたしましたが、改めてこれまでの検討状況等について、説明いたします。

市では、2022年度に、「町田市（仮称）子ども・子育てサポート等複合施設整備基本計画」を策定し、新施設のコンセプトや、複合化する機能等をお示ししました。

この新施設に複合化する機能といたしましては、市の教育支援や児童福祉、母子保健等の公共サービスに加え、都立児童相談所がございます。

また、地域の利便性向上に資するような民間サービスの誘致も予定しております。

当初は設計と建設工事、その後の施設管理を一括で発注する方法で事業者の公募を進めていましたが、応募者が辞退したため、この方法を改め、現在は基本設計のみを発注し、作業を進めております。

地域の皆様には、来年の年明け、2026年の1月か2月頃に、連絡会を開催し、その時点の基本設計の案についてお示しし、ご意見を伺いたいと考えております。

この基本設計は、来年の5月末までに完了する予定です。

また、今ある建物についてでございますが、教育センターは既に山崎の仮設庁舎へ移転しておりますので、建物は空になっております。

現在、解体に向けた設計を行っており、来年度から再来年度にかけて、解体工事を行う予定です。

この解体工事につきましては、工事に着手する前に、工期や作業内容などについて、周辺にお住まいの皆様へ、説明を行ってまいります。

《質疑》

滝の沢自治会

今、ばあっと流されてしまってスケジュールが全然見えなかつたので、もう少しこうなって、いつこうなってというのを聞きたいのと、もう一つは、基本的にこの計画が発生したときの開設の予定はいつだったのでしょうか。

政策経営部長

本当はスケジュール表みたいなものをお示しできればよかったですのかもしれませんのが、失礼いたしました。口頭で申し上げます。施設建設に向けた基本設計を2025年度から2026年度にかけて行います。その後、実施設計を2026年度から2027年度にかけて行います。2027年度中には建設工事の発注、工事を開始していきたいと思っていまして、そこから3年

近くかけて、2030年度中に工事の完成とオープンを予定しています。

もう一つ、建物の解体ですが、解体にも一応設計という作業がありまして、今まさにやっていますが、2026年度から2027年度にかけて建物の解体工事に入る予定でございます。

当初との差ということでございますが、たしか2028年度の方向で最初は予定していたかと思いますが、いろいろ調整事がございまして、今は2030年度のオープンを目指しているという状況でございます。

滝の沢自治会

まだピンときていませんが、地域との話し合いと解体はどちらが先なのですか。あと、どういう順番で話を進めていくのかというのが全然見えないのです。相談してから解体して計画するのか、計画して全部設計が終わってから地域と相談するのか、その辺の順番が知りたいのです。

政策経営部長

解体はまさに壊すだけですので、工事に関する説明会は行われますが、壊すということ自体の皆さんとの意見交換というのはないかと。ただ、新しく造る施設については、まだまだ皆さんの意見交換も必要かと思いますので、それについては、先ほど申しました連絡会を適宜開催していきたいと考えています。直近では年明けの1月か2月頃になりましたら、その段階での建物の配置や何階建てとか、そういう設計の案をお示しできるかと思っています。

滝の沢自治会

その施設は昔の忠生第四小学校で、教育センター以外のものができるのですよね。

政策経営部長

教育センターも元に戻りますけれども、それ以外にいろいろな施設ができます。

滝の沢自治会

ですよね。地域の集合場所というのかな、親睦を図るための施設ができるという話を以前に聞いていたのです。そうすると、教育センターだけの話ではなくなりますよね。それで、建物の設計がある程度終わってから、こういうのができます、ああいうのができますと言われたら相談にならないではないですか。先につくってしまってからどうしましょうかというの順番がおかしいような気がするのです。どういう順番でやっていくのかが見えないです。要するに、そこのエリア全体をどのように開発していくのか。あとは、

どの時点で市民との話合いとか、共同作業が始まるのかとか、設計が全部終わってしまってからこのようになりますというのではまずいですよね。だから、そこの順番が知りたいのです。

政策経営部長

2022年度、基本計画を取りまとめています。それに向けて、2022年度から合計で8回だと思うのですが、皆様との意見交換の場を設けてまいりました。その意見交換を踏まえて、コンセプトや機能を基本計画に一旦まとめています。まさに今、皆様からいただいたご意見を踏まえながら、何階建てにするのか、配置をどうしようか、駐車場をどこに確保しようかという建物を図面に起こす基本設計の作業をやっていまして、それを年明けにお示ししたいと思います。

滝の沢自治会

すみません、あまり分かっていないのですが、2022年度からこういうことをやっているということだったのですけれども、滝の沢自治会には1回もお呼びがかかっていないのです。それはどことどこでしょうか。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

そうしたら、私がフォローします。その集まりに、この中にいるメンバーで言うと、住宅供給公社木曽団地自治会会长、木曽中央町内会会长、私も出席しています。それについては、全部ではないのですが、途中途中、連合会の定例会の中で一応ご報告はさせていただいていたと思います。なので、リマインドというか、振り返りもあってこの話も出ているところがあるので、次回の定例会のときに、また改めてそこまでのもう少し細かい話は私から資料をお出しするようにしますので、そうすると分かるかと思います。

実際、意見交換会で出ているのが、もともとあそこは避難施設にもなっていた場所だから、その機能は確保してほしいとか、それから、3つの施設が合同になるので、これからにも関わるのですが、交通網のことなど加味しているかなどです。その辺がどうなっているかをもう少し詳しく聞きたいというところは正直あるのですが、ただ、さっきも言ったみたいに、入札をしたらみんな辞退てしまって、結局、遅れてしまっているのです。そこが今止まっているから基本設計のみを取りあえず進めるという話があるので、それが出ないと多分話が進まないかなと、今、私は聞いていて思いました。部長、合っていますか。

政策経営部長

ありがとうございます。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

フォローになっているかどうかあれですけれども、決して役所の味方とか、そういうのではなくて、実態をたまたま知っているので、木曽中央町内会会長も住宅供給公社木曽団地自治会会长も多分ご存じかと思うのですが、そういう形になっています。もし滝の沢自治会会长のほうでこうしてほしいという意見があれば、連合会のメンバーも参加しているので言っていただければと思うのですが、その辺の話も連合会でもしていたとは思います。

滝の沢自治会

そうでしたか。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

私はしています。なので、この辺でこの話題はよろしいでしょうか。

ほかに教育センターの跡地について、今日あまり詳しくやると時間がなくなってしまうと思うので、今までの資料を私のほうでも企画政策課と照合して、次回の定例会のときに改めて皆さんに詳細の情報をお出しします。部長、よろしいですか。

政策経営部長

お願いします。

木曽中央町内会

今の唐澤部長の説明で私は理解したのですが、やはり重要なのは、市民一般の使われる方がどの程度理解するかというところだと思うのです。2026年1月から2月頃に基本設計の案をお出しいただけるということで、そこでの説明なのですが、今、連合のほうで会長何名かで出席させていただいているのですが、裾野をもう少し広げていただき、説明を丁寧にしていただければなど。いつも丁寧にはしていただいているのですが、どうしても分からなかつた、知らなかつたというようなお話があるので、こここの施設は児相も入るということで重要な施設ですから、説明を丁寧によろしくお願いしたいと思います。

政策経営部長

了解いたしました。どちら辺までお声がけするかという話かと思いますが、そこも含めてご相談させていただきながら準備したいと思います。

2 学校統廃合、施設再編に伴う、交通整備、長距離通学への対応、交差点で

の人の集中による退避スペースの確保

学校統廃合、施設再編に伴う、交通整備、長距離通学への対応、交差点での人の集中による退避スペースの確保などに、不安があります。

そこで、①現在、施設再編や学校統廃合が進んでいる地域の現状と課題について教えてください。

②これらから、木曽地区で、検討している内容について教えてください。

【回答】

政策経営部長

議題の2の、「施設再編に伴う現状と課題、今後の検討内容」について、お答えいたします。

まず、現状といたしましては、既に6月から、山崎の旧忠生第五小学校があつたところにある仮設庁舎において、東京都立児童相談所と町田市の子ども家庭支援課、及び町田市教育センターが、一つの庁舎で業務を行っております。

都立児童相談所が町田市内に設置されたことにより、町田市との連携がこれまで以上にスムーズになり、より迅速に対応できるようになった、と聞いております。

また、複数の機能が一つの庁舎に集まることによって生じる課題についてでございますが、運営開始から5か月程度しかたっていないこともあり、現時点では特段聞こえてきておりません。

議題の1でお答えした、今後整備する「(仮称)子ども・子育てサポート等複合施設」につきましては、立地特性や施設規模を考慮し、課題となりそうな事項については、仮設庁舎における運営状況も踏まえ、基本設計を進めています。

議題の中で例に挙げていただいている、「交通」に関しましては、新施設の立地特性を考慮し、一定規模の利用者用駐車場の整備を予定しております。

学校教育部長

「①現在、(施設再編や)学校統廃合が進んでいる地域の現状と課題について教えてください。」についてでございますが、「新たな学校づくり推進計画」の最初の取り組みとして、2025年4月に本町田ひなた小学校と成瀬小学校が開校しました。

開校後の状況について学校からは、「教員が増えたことで、これまで以上に教員間で協力し、工夫をしながら児童と接している」、「子どもたちを見守ってくれる、地域の方や保護者が増えて心強い」といった声を聞いております。

また、保護者からは、「新しい友達ができて楽しい、と子どもから聞いて

いる」、「親のほうが不安や心配を抱えていたが、子どもたちは希望しかないということを保護者として感じている」という声が、学校に寄せられないと聞いており、児童や学校運営にとって、よいスタートを切れたと考えております。

一方で、統合に伴う課題についてですが、まず、成瀬小学校では、開校後、通学経路上の一部交差点や、学校正門付近の歩道上に児童が集中し、滞留してしまう課題がございました。このため、保護者に向けたアンケートを実施し、通学経路の一部を変更し、滞留の緩和につなげたことや、学校正門付近の歩道について、児童の集中と滞留の緩和を図るため、町田警察署協力の下、歩行者用信号機の青信号の秒数を延ばすなど、通学上の課題への対応を図っているところでございます。

なお、本町田ひなた小学校では、そのような課題はございません。

「②これらから、木曽地区で、検討している内容について教えてください。」についてでございますが、木曽地区では、第1期5地区の対象校はありませんが、本町田地区の小学校の統合とそれに伴う通学区域の変更に合わせて、2026年度に、木曽地区の中学校の通学区域を一部変更します。

具体的には、現在忠生第三小学校の通学区域は、町田第三中学校と木曽中学校に分かれていますが、2026年度から全域を木曽中学校の通学区域に変更します。なお、この通学区域変更については、2024年9月に忠生第三小学校で保護者説明会を実施し、在校生及び新入学予定者の保護者様への周知を図りました。

また、第2期として、2033年度に統合を予定している町田第三中学校と山崎中学校については、来月、2025年11月に、意見交換会を開催します。

2026年度からは、学校運営の協力者、保護者、教職員の代表者、新たな通学区域内の地域の代表者で構成する、「新たな学校づくり基本計画検討会」を立ち上げ、通学の課題や生徒への配慮など、委員それぞれの立場から、様々な意見や提案をいただきながら、具体的な検討を進める予定です。

また、児童生徒の通学等の負担軽減を図るため、路線バスといった公共交通機関に加え、タクシーやスクールバスなどの活用可能性について、庁内横断的に具体的な検討を行うため、2024年8月に、都市づくり部をプロジェクトリーダーとして、子ども生活部、学校教育部によるプロジェクトチームを設置し、現在、検討を進めしております。

《質疑》

滝の沢自治会

今の説明は、例えば町田第三中学校と山崎中学校の意見交換会を11月にやるという話だったのですが、それは、意見の交換ではなくて、パネルを展

示して、それを各担当が説明するという話ですよね。そのように書かれていたと思うのですが、違いますか。

学校教育部長

これから行います意見交換会というのは、そういう形式を取ろうと思っています。

滝の沢自治会

意見交換ではないですね。

学校教育部長

意見をいただいて、そのときにお答えもいたします。パネルを展示しているだけではなくて、それを見ていただいた方から質問があったら、その質問もお受けするというような形にさせていただきます。

滝の沢自治会

では、その場で確実に回答が来るのですね。

学校教育部長

確実にご満足のいく回答かどうかは分かりませんが、回答はいたします。

滝の沢自治会

続きまして、本町田ひなた小学校は、端っこのはうが学区変更というかな、どっちに行ってもいいよということになりましたよね。あれは何でなですか。

学校教育部長

端っこのはうというのはどちらのことですか。

滝の沢自治会

位置的に言うと、多分北と南のはうだと思うのですが、本町田ひなた小学校ではなくても、隣の小学校へ行ってもいいよというふうに変わっていましたよね。

学校教育部長

本町田ひなた小学校の位置は、前の本町田小学校と変わりません。本町田東小の子どもが、本町田ひなた小が遠くて、それよりも近いところに行きたいという場合は希望を出していただいて、それで行っていただくというよう

な形は取っています。

滝の沢自治会

説明を見ると、どちらに行ってもいいような説明だったと思うのですが、そういうことというのは今後もあるのですか。

学校教育部長

それは在校生に対してやっている制度です。今、在校している子どもが、今までの友人関係とか、そういうのを含めて継続する場合にどちらを選択してもいいよと。ただ、新入学の子どもの場合は学区が優先になります。

滝の沢自治会

すみません、今その書類を正確には覚えていないので、もう1回確認してみます。新しい学区というところで、青い文字でこちらも行けると書かれていたと思うのです。

学校教育部長

基本的には、どちらも行けますよと言っているのは在校生に対してです。新入学生については、学区の選択制度が別にあります。受け入れる余裕があれば、そちらの学校にも行けるというものです。それは今まである制度です。ただ、特例として、在校生に対してはどちらを選んでもいいよという制度を新しくつくったということです。ですから、新入生が全く行けないということではないです。隣接の学校だけです。

滝の沢自治会

基本的に、小学校はどこへ行ってもいいという形になっていますからね。

学校教育部長

小学校は隣の学校だけです。どこを選択してもいいというのは中学校だけです。小学校の場合は、隣接の小学校だったら空きがあればいいですよという学区の選択制です。

滝の沢自治会

そういうふうに変えた理由は何なのですか。

学校教育部長

随分前の話、一時期は、小学校は本当にどこに行ってもいいようにしたみたいなのですが……。

滝の沢自治会

違います。そういう制度があるのと、例えば、今、在校生はどちらに行つてもいいのですが、もともとあった学校がなくなってしまうわけですから、結局それは新しい学校になりますよね。

学校教育部長

今言いました学区の選択制というのは昔からあるやつで、在校生が選べるというのは2025年4月から適用した制度です。統合が始まりましたから、統合の際に在校生がどちらを選んでもいいよと。

滝の沢自治会

では、もう1回書類を確認してみます。

もう1点、これはさんざんやっていることなので耳にたこだと思うのですが、近くに新しい学校ができます、でも、学区が違うので、公共交通機関を使ってもいいから遠くの学校へ通いなさいと。これは2年前もやったと思うのですが、もともと近くにある学校だと歩いていけるけれども、遠くの学校へ行くことになつたらバスに乗ります。その交通機関の費用は、3分の2は補助しますけれども、3分の1は自己負担してくださいと。この考え方というのは、児童や児童の家庭のことを考えて、どう思いますか。

学校教育部長

その制度というのがずっとやらせていただいている制度で、学区というのは、ある程度範囲を決めないと成り立たないものですから、一部はそういうところが出てきてしまうところがあるのですが、そういうところは3分の2の補助をするということでお願いしています。

滝の沢自治会

だから、歩いていける学校がそばにあります、交通費はかかりません、負担もないです、でも、今度は学区が変わってしまって遠くの学校へ行きなさいということになります。そうすると、バスに乗らないと行くのは厳しいので、費用の3分の1が家庭負担になります。これは子育て支援に反すると思うのです。

学校教育部長

近くの学校に行きたいとか、そういう場合は、入学のときに、今まである学区の選択制という、小学校だったら隣接校、中学校だったら全区域を選べるような制度を活用していただくと。

滝の沢自治会

これは2年前にも同じこと言ったと思うのですが、行きたい学校に空きがなければ行けないです。ということは、その人の意思で自由に選べるということではないですね。だから、新しく造る学校は、そういうのをもう少し考えた上でキャパシティーを考えてくださいということを言ったのですが、2年たってもそれは全く考えられていないと私は感じています。

住宅供給公社木曽団地自治会

今、滝の沢自治会会长からのご質問を伺っていて、できれば学校区域の地図を投影していただければ、なおさら理解が深まるかなと思うのですが、どうでしょうか。ございませんか。

学校教育部長

申し訳ありません、準備していません。

住宅供給公社木曽団地自治会

こういったものもあると理解度がすごく深まると思います。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

すみません、私から。このお話は、実は学校ごとに保護者の方と結構されている内容にはなるのです。自治会長である我々のところには、もう子育てが終わってしまっているのでなかなか情報がないかもしれないですが、実はこれを具体的にもっと細かく、ああじゃないか、こうじゃないかとかということよりも、自治会長として少し考えてほしいこともあって、私はこのテーマがいいなと思っているところがあるので、別の切り口をお話しすると、この組織再編が行われたことで人の動きが変わるので。

要は、3つの施設が教育センターに集中するということは、いろいろなところから木曽地区に来る人が増えるということをイメージしてほしいのです。そのときに木曽地区の商店街とかも変わってくるというところを少し考えてほしいなと思うのと、行政は中学校を中心に町を考えているのですよ。これは合っていますよね。中学校を中心に地域や防災のこととかを考えているのです。そのことを知っておいてもらえると、学校統廃合が意味することは、その地域自体も変わってしまうということなのです。そのときに、では町田市は何も考えてくれないのではないかということではなくて、その事実を知った上で、自治会長である我々は今後どうしていくかという課題が実は来ているということを連合会でお話をていったほうがいいのではないかと思うのです。

もちろん、自治会連合会としても、通学路の問題とかがあつたら、そこには自治会として、こういう意見を出して調整するということは一つ大事なことだと思うのですが、山崎中と町田第三中が統合することは決定事項なので、それで都合のいいときに学校を建ててくださいね、と言ったところで土地がないですよね。また、お金もかかるわけだから、やはりその現実と照らし合わせて地域を考えていくということをしたほうがいいのではないかと思っているのです。答えはないのですが、町田第三中と山崎中がドッキングしたらどうになってしまうのかというのは、木曽地区でこれからも議論をしたほうがいいのかな。木曽中は残るみたいなので、木曽中を中心としたところはあまり変わらないかな。

少し話は変わるので、町田に都立高校が7校ありますが、これも統廃合が入りますよ。何で知っているかというと、私は町田総合高校の評議員をやっているので、東京都の情報も私のところに入ってくるのです。となると、都立高校は町田市にこんなに要らないよねというのでもまた町が変わることです。なので、人口減少、少子高齢化で学校が再編されていくことで地域が変わるということは皆さんのが考えるきっかけになるのではないかと思います。今日ここで全ての答えが出るわけではないですが、今後、木曽地区をよりよい地域にしていきたいので、お力添えいただけたらなと思います。

学校教育部長

今おっしゃっていただいたように、大きさとしては、今まで中学校区とか、そういうのを意識していましたが、今回、学校統廃合である程度そういうのが広がっていくと。中学校区になってしまふととても大きくなってしまうので、今回の学校統合で建てる学校は、地域の拠点であると考えているのです。ですから、小学校で地域活用型学校というのを今年度から言い出しているのですが、そこの地域の人たちにも使っていただきたいと考えています。逆に、中学校になると今度は広くなり過ぎてしまうと、部活動もあるので学校を地域の方が使うというのはなかなか難しいところもあるので、小学校を起点にそういうのを考えていきたいなとは思っています。地域との関連になります。

滝の沢自治会

少し論点が違うような気がする。私が言いたいのは、その地域で小中学校は1つですよというのは、別に何とも思いません。確かにそうかもしれません。小学校全員が同じ中学校へ上がっていいくのもいいかもしれません。言いたいのは、木曽中は、木曽地区の一番外れにあるのです。端までの距離は3km近くあるのです。今度の新しくできる中学校は、私の地区ではないですけれども、特に木曽東四丁目か、あの辺になってくると目の前にできるのです

よ。モノレールが今度通るところの道ですよね。あそこを境にして木曽地区と本町田地区に分かれますから。そういう目の前にできる学校に行けず、バスに乗って遠くの中学校まで行くということはおかしいのではないかということを再三言っているのです。

なおかつ、今度の木曽中は、例えば町田街道からはバスが通っていないです。ということは、木曽で降りて500mか600mか分からないですけれども、10分以上歩くわけですよ。そういうところにあるのです。中学校を地域の中心に考えるというのは結構なのですが、木曽中を造ったのは市民ではなくて、市ですよね。そういう端っここのところへ造ったわけですよ。だから、住所が木曽だから木曽中でいいではないかという考え方方がおかしいのではないかということです。近くに学校ができて、歩いていけるのだったらそれでいいですか。しようがないでしょうと。そういう位置に配置したのは市なのですから。だから、そういうところはもっと柔軟に考えてください。単に木曽東、木曽西、木曽という名前がついたら木曽中に行くのだという考え方方はおかしいよと言っているのです。

なおかつ、さっきも言いましたが、歩いていける学校だったら交通費はかかるないです。ところが、バスに乗りなさいと。バスに乗ってその3分の1は家庭負担ですよといったら費用がかかるのですよ。それはおかしいのではないか、子育て支援に反するのではないかと言っているの。

多分これから木曽東のモノレールの沿線は再開発されていきます。そうすると、子どもはどんどん増えていきます。あの辺の再開発に関しては、木曽も本町田も一緒になってやっていますが、学校だけまとまってやっていない。その辺のところは一貫性がないと思っているのです。一言で言えば、とにかく歩いていけるところに学校があるのだったら歩いていかせてくださいということなのです。

そこで、以前、さんざんやったのですが、応募があれば受付枠の中で受けますと。その中でどのようにするのですかと聞いたら、それは全員が抽せんで公平にやりますと。私に言わせれば公平でも何でもないのです。とにかく新しい学校に行きたい、遠くてもバスに乗ってでも行きたいという子と、近くに学校があるから歩いていきたいという子は同じではないですね。何が公平なのかといったら、とにかく歩いていけるということ自体が勉強の時間を奪わないということでは公平だと思うのですよ。バスに乗って、さらに30分近く歩いていく学校と、そばにある学校に行くのとは全然違いますよね。そちらのほうが重要ではないかと私は思っているのです。

先ほどの本町田ひなた小学校については、いいことばかり言っていましたが、悪いことは必ずないのですね。いいことだけが出てくるのです。あそこは学区ができるまで相当もめたと思うのです。私のほうにも、離れているから分からぬのですが、そういう話が来ましたから。そういう話は一切なし

で、結果こうでしたとしか言っていないのです。今だって遠くから歩いてくる子は結構いると思うのですよ。だから、その考え方というのかな、なぜいいことしか言わないの、悪いことは言わないの。こういう問題がありました、こういうふうに解決しましたとかという話が出てこない。それはおかしいですよね。懇談会でも何でもないですよ。ただの報告会ですよね。そのところをはっきりしてくださいと言っているの。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

すみません、お話し途中で申し訳ないのですが、次の話題もあるので、滝の沢自治会会長のお話はよく分かりましたので……。

滝の沢自治会

いや、分かっただけでは……。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

ここは結論を出す場ではないので。

滝の沢自治会

だって、懇談会でしょう。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

懇談会でも時間があって4時半までに終わらなければいけないので、申し訳ないのですけれども、そこは切らせてもらってもいいですか。

滝の沢自治会

ちょっと納得できんですね。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

それは大変申し訳ないのですが、別のときにやりましょう。

滝の沢自治会

3年間ずっと大きくやっているのですよ。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

ここは1時間半しかないのに、その中でやるには限界もあるし、別の機会で直接やっていただくのがいいと思います。青少年健全育成の関係とかも、いろいろな団体もちゃんと市と調整しながらやっている内容なので、今日はいい話ばかりとは思っていないのです。悪い話もきちんと入れていただいた

と思っているのですけれども、私もいろいろなところで話は聞いているので、ここで結論を出すわけではないので、そこはご理解してもらってもよろしいですか。

滝の沢自治会

結論ではなくて、意見が聞きたい。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

意見はもう申し上げていると思うので。

滝の沢自治会

子育て支援に反するのではないですかについて、そうではないですか、反するとは思っていませんとか。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

それは対応すると言っているではないですか。タクシーやスクールバスとか利用可能性を検討しますと言っているので、それ以上答えられないではないですか。

滝の沢自治会

歩いていけるところで……。

学校教育部長

個別にお話ししましょう。

(司会) 木曽地区町内会・自治会連合会長

時間があるので、大変申し訳ないのですが、ちょっとここで切らさせていただいて、次の議題に……。

住宅供給公社木曽団地自治会

今の学校の話ですが、滝の沢自治会会长のお話だと、遠い、近い、便利、不便ということが中心になっているかと思いますので、先ほど申し上げましたように、地図か何かを出していただけすると話が聞きやすいのですが、私は田舎育ちで、中学校は、幸い、私は中心辺りで近かったのですが、両サイド、南北になっている地図を想像していただきますと、北から來るのに30分、南から來るのは40～50分という環境にありました。ここは自転車通学が許されていまして、特に3年生ですね。2年生も一部事情によって含まれっていましたが、3年生は進学で時間外学習とかがありまして、冬になりますと

暗くなる時間帯に徒歩で帰るのは大変だと。不便なところでありますから、交通アクセスとしては公共バスだったと思います。

町田市において、中学の自転車通学というのはどういう位置づけになるか。考えていないとか、考えているのかお答えいただきたい。

学校教育部長

中学校における自転車の通学ですけれども、現在は小山田中学校でのみ許可制で出しています。ちょうど今度の第2期から中学校の統合が始まります。お話ししていますように、かなり広いところ、あと、学校というのは本当は学区の中心にあればいいのですが、空いている場所がなくて端っこになってしまふ場合もありますので、そうすると距離が出てしまうということで、今年度から中学校の場合の自転車通学というものの検討会をしています。基本的には許可制でやっていくのですが、道路を何とかするというのはなかなか難しいので、必要なものとしては、まずは駐輪場を用意するとか、そういうのも含めて中学のほうで対応していくかどうか検討していますので、逆に言えば、それを導入する方向で考えていますというふうに言ってしまっていいかと思います。

住宅供給公社木曽団地自治会

3番にありますように、バスの運転士さんの不足で減便という状況もあるし、通学の時間帯はきつくなると思います。ですので、学校も何時に始まる、何時のバスに乗らなければというバスの時刻によっても左右されると思います。

それから、まちっこが学校に回るような計画も含めていただければいいかなと思います。公共交通機関だけを考えますと、減便とかで影響があるかと思います。また、まちっこだと町の方針でいろいろ工夫ができるかと思いますので、ぜひお考えいただきたいと思います。

先ほどお答えいただきました自転車については、さらに発展していくようにお願い申し上げます。

それから、タクシーについては、どのような料金というか、形で運用したらしいかということをお聞きしたいのですが。

学校教育部長

実際にスクールバス、タクシーにかかる負担額というのはまだ計算はしていません。ただ、現在考えていますのは、今、公共交通機関を利用する子どもは運賃の3分の1を負担していただいているので、同程度の負担をしていただこうかなとは思っています。

住宅供給公社木曽団地自治会

それは中学に対してですか。

学校教育部長

小学校でもそのような地区が出てきたら、そういうことも考えます。現在、鶴川のほうなのですが、小学校でもバス通学補助というのが実際にあります。それも3分の1の負担という形になっていますので、それと同程度の価格設定になろうかとは考えています。

住宅供給公社木曽団地自治会

その3分の1というのはどういった計算で出るのでしょうか。

学校教育部長

単純に定期代の3分の2はこちらから補助しますよという形です。

住宅供給公社木曽団地自治会

それは、俗に言う生活保護世帯なども同じような考え方でいらっしゃいますか。

学校教育部長

申し訳ありません、生活保護世帯というか、就学援助費というのに交通費が入っていたかどうかを失念しています。

住宅供給公社木曽団地自治会

ご検討、またはご返答をお待ちしています。ありがとうございました。

- 3 神奈川中央交通の運転手不足と働き方改革による減便への対応策について
神奈川中央交通の運転手不足と働き方改革による減便への対応策について、町田市で検討している内容を教えてください。

【回答】

都市づくり部長

運転士不足の問題についてでございますが、バス事業者からは、かねてから運転士が不足している状況に加え、2024年4月に「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」が適用されたことによる勤務時間の見直しによって、運転士不足がさらに深刻化しており、減便を伴うダイヤ改正を実施せざるを得ない状況と伺っております。

町田市では、運転士不足に対応するため、投影資料1のように、市のホー

ムページで運転士募集の情報を公開しているほか、投影資料2のように、9月15日号の「広報まちだ」ではバス事業者へのインタビューを掲載し、運転士のやりがいや魅力を発信するなど、バス事業者と連携協力した取組を実施しております。

今後も、自動運転の導入なども含めて、バス事業者と連携しながら、問題解決に努めてまいります。

《質疑》

滝の沢自治会

私は滝の沢からよくバスに乗るのですけれども、あそこは時刻表を見ると1時間に20本あるのです。単純に2~3分に1本来るはずなのですが、10分に3本来て、だんごになるのです。これは神奈中に話を聞いたのですが、例えば一番前のバスが通過してしまうと、お客様からクレームが入るので。だから、一番前のバスは必ず止まるようにと既に決まっているらしいのです。そうすると、一番前のバスだけすごい混んで、次にすいているバスが来るので。だから、その辺のやりくりをうまく考えれば、バスが減っても少しは楽になるのではないかという意見です。

住宅供給公社木曽団地自治会

今のバスの話ですが、私のところは木曾住宅というバス停になります。それで、私は、朝、子どもたちの見守りでそこに立っています。そのときすぐに左側にバス停がございます。今お話のあったように、行き先は2系統ありますから、保健所経由に乗る方は待っていますけれども、一般的には森野三丁目から市役所前に行く方のほうが多いと思うのです。ややもすれば、2台、3台とつながってしまって、時間のある方は2番目の車に乗るとか、3番目とか、クリアするのですが、こういった状況が通勤時間帯にはございます。ここは少し矛盾するかと思うので。

あとは、新しく忠生か桜美林大学の辺りから分岐して、都道の3・3・36号のほうに路線を変えていくことも必要ではないかなと思うのですが、この辺も神奈中さんと一つ議論していただいて、一道路に路線が集中するのではなくて、今は新しい道路もできたので路線を変更して、連結することができないようにしたほうが地域も助かるのではないかと思いますから、ぜひお願いたいと思います。

木曽中央町内会

このようなことを言うとほかの会長さんに叱られてしまうかなというところがあるのですが、運転士の不足で減便云々と。私は木曽なのですが、町田市全体で考えたときに、ほかの地域に比べると随分バス便があるなと感じて

いるのです。バス便というのは当然誰でも利用できる交通手段ですから、これを減らさない努力というのも大切だと思うのですが、今の状況をずっと維持していくというのは情勢を見てもなかなか難しいかなと思っているのです。

そこで、今、部長から運転士さんの募集に伴う取組をしていますよということだったのですが、その取組で運転士の方が増えたかどうか、現状でもし分かればお教えいただきたいのと、引き続き、バス事業者と連携して努力していただきたいと思うのです。

都市づくり部長

増えたかどうかというところでございますが、実際は神奈中さんとお話をする限り、この取組で急激に増えたとか、そういったお話は伺っておりません。ただ、こういったことを今後も続けて、バスの運転士の魅力だとか、やりがい、そういうものを伝えながら、運転士不足に対応していきたいなとは考えています。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

それでは、市政報告をしたいと思います。

ただ、その前に、バスの話とか、学校の話とか、いろいろ議論がありましたので、物の考え方というか、実態のお話を市長の立場からしたいと思います。

ご案内のとおり、団地ができたのが昭和40年代です。既に50年ぐらいたっています。団地ができたとき、特にURと住宅供給公社の開発のときは、当時の大下市長の頃に、いわゆる団地の計画的な開発みたいなことが打ち出されていました。公共施設は開発者側が土地を出せ、出さないとできないよということでありました。したがって、田んぼも含めて山谷を切り開いてやっていますので、団地の中は計画的なまちづくりというのができているのです。したがって、ある程度の人口がここに張りつくということになれば、その真ん中辺りに小学校を造り、その横に中学を造り、もう1校こちらに中学校を造りという計画でやっていたのです。

ところが、URなり、住宅供給公社なりの開発がないところはどうしているかというと、いわゆる任意買収で土地を買ったりしているのです。住んでいる子どもたちの真ん中に土地が見つからないと端っこになってしまします。それは行政のせいでもないし、もちろん、住んでいる人たちのせいでもない。だけれども、学校だけは人口急増で困るので、そこにできるということで、フリーハンドで自由に学校を配置することはできなかったのです。今の学区

の中で、すぐ目の前に学校があるのに行けないという一番大きな理由は、計画的に、あるいは自分たちで望んだとおりに施設を配置できる条件ではないということ。それはこの40年、50年を見ていただくと分かるのです。

ですから、やたら近くに学校が2つできてしまったり、真ん中ではない端っこのはうに学校ができてしまったりする。みんな計画開発ではないところ、集合住宅を計画的に配置するところではないところに学校を造るとなると、真ん中にはできないということで、学区の線のすぐ目の前に行けないというのは、そういう数十年間のまちづくりの結果なので、それをどうしろといつても、現実に学校を造らないわけにはいかない、校地を求めなければいけないという事情は当時もあったわけで、真ん中にはないから、ではここは学校はなしにしようというわけにはいかないので、そういう意味で、今、矛盾というか、ご指摘のような話が出てきています。

バスも同じで、バスの路線というのも、正確にはそこにいた人たち、そこにいるけれども、バスを使わない人もいる。歴史的というか、時間的に変わってバスの需要がなくなっても、これまで使っていた人は何でなくなるのだという議論になるから、新しいところに需要ができるでもバスの路線を引けないという事情があるので、それは住んでいる人のせいでも、ましてやバス事業者のせいでもないのです。それは何十年間の流れの中で人の住み方が変わったという結果が出てきているので、最初からここにこういう路線をつくって、ここに何人住んで、ここにバスを通してというのは、社会主义国じゃないですからできないのです。そういう意味で、自由に住み、自由に暮らすという前提でバス路線もその需要に従ってできているということで、不便だけれども、ここにないというのは、さっきの目の前に学校がないのと同じようなことが歴史的な流れの中で出てきました。

役所や学校は、もろに公共ですが、バスは公共交通機関と言いながら、実際は民間がやっているのです。ですから、東京都や町田市役所が直接こうしろ、ああしろというのはなかなかできないという事情も出てきています。もちろん、バスを公営でやろうということを言っているつもりではないです。そんなお金はもっとありませんからできないのですが、民業でやるという中では、公共交通機関と言いながら、需要に合った路線をつくる、あるいは需要がなくなったから廃止するということがなかなかできないという事情があります。

ということで、あと10分ぐらいですかね。項目的には15項目ぐらいあります、15項目やっていると5時になってしまふので、おろ抜いて半分ぐらいにします。

ここで議論になっていました事項の話で、東京都立町田児童相談所です。そこへこの6月から、旧忠生第四小学校にあった教育センターの職員も引っ越しました。旧忠生第五小学校の跡地に山崎保育園ができて、その隣に教育

センターと町田児童相談所ができているということです。ここでのメリットは、市役所の子ども家庭支援課も実はこの6月に引っ越しました。つまり、今まで教育センターが持っていた教育委員会の子どもの指導、それから、子ども生活部がやっていた仕事、そして、東京都八王子児童相談所でやっていたものがここに集まっているということで、東京都、教育委員会、子ども生活部の職員が一緒にになって子どもに対するサービスを統合してやっているのです。そのほうがうまく情報が共有できるのでいいということで、もう既にスタートしています。ただし、全部プレハブですから、ここでずっとやるわけにはいかないので、今やっている機能を旧忠生第四小学校に造ろうとしている子どもに関する総合センターに引っ越しします。

ここについては、部長はしっかりと答えていないのですが、例えばスーパーみたいなものを入れようとしています。ですから、普通に人が来る建物として今計画しているが、まだこれからなので決まっていません。誰もそこでやりたいという人がいないかもしれない。いや、三和は来るよとかいう話もあるかもしれないけれども、そういう商業施設なども同じ建物に入れようと計画しているので、その話は年明けにまた説明をすることにはなっています。ですから、機能としては小さいですが、山崎保育園の隣でスタートしています。

また、健康福祉会館の中でやっている子どもの休日夜間の診療所も一緒に入りますので、子どもの関係の医療も含めて、みんな旧忠生第四小学校に越してきてしまおうという計画を持っています。ですから、旧忠生第四小学校周辺の地域の子どもたちにとっては大分便利な場所になる。それなりに敷地もあって、少なくとも健康福祉会館よりも大きな駐車場ができますので、車で来ることもできるようになるということです。それが今の旧忠生第四小学校の開発構想の話であります。どんな建物がいいかというのはまだ作業中です。面積とか、大まかな話がまだ決まっていませんので、今それを決めていく最中で、そういうものがないと議論にならないので、出そうということです。

子どもクラブは、成瀬にできるということです。

新たな学校づくりですから、この地域については大体説明しているところです。

小中学校の給食費がただになりました。町田市が給食費の8分の1を負担して、東京都が給食費の8分の7を負担して、保護者は8分のゼロとなったのが今年の1月です。

それから、給食センターは、旧忠生第六小学校跡地で、町田地区は今年からスタートしています。

特別養護老人ホームは申し込んで1年以内に入る方が95%ぐらいになっています。これはもうご案内かもしれません、東京都内で言えば、立川か

ら東は1年、2年では入れないです。3年、4年待つのが当たり前で、東京23区に行くと、5年たっても10年たっても入れません。東京23区の場合は、茨城、栃木、群馬でないと特別養護老人ホームには行けないということになっていまして、場合によっては山形、秋田のほうまで行かないと見つからない。東京23区は完全に介護難民状態と言ったほうがいいかもしれません。

スポーツ公園ですが、木曽東調整池については、2027年度完成予定で今作業しています。あそこの跡に公園みたいなものを造るということも一緒に進めていますが、それはこの調節池の上にできるということで、年度的には始まったのは西田のほうが早いですが、出来上がりはこちらのほうが早くて、2027年度に完成予定です。

町田木曽山崎パラアリーナは、先ほど言いました旧忠生第六小学校、給食センターの横に造ります。まだ建設は進んでいませんが、計画は進んでおります。これは、パラスポーツという障がい者のスポーツが優先予約で、空いていれば健常者も使えるということでパラアリーナという名前がついています。

美術館は、ここに書いてあるとおりの日程で進んでおります。

資源ごみ処理施設です。これは今、相原地区に計画しています。多分2032年度にはスタートできると思います。ここで瓶とか缶とかの処理、プラスチックの圧縮施設というのをやります。ただし、町田市全体で出てくる量の半分の処理能力ですので、もう半分を造らなければいけないので、これは上小山田地区に計画していますが、施設を設置する敷地がまだ決まっていません。この辺ということでまだ止まっていまして、そこへ行く道路の計画もやっていますが、まだ道路もできていないので、相原より上小山田は少し遅れると思います。

ここが一番大事なところなのですが、これは町内会・自治会の皆さんに既にお願いをしている話なのでご案内かと思いますが、来年の4月から容器包装プラスチックの分別収集が始まります。今月から10月からの1年間のごみカレンダーを配っていますが、来年の4月のところを見ていただくと、土曜日のところがピンクの袋になっています。今は、例えば水曜日と金曜日は黄色の袋の場合がありますが、4月になると土曜日にピンクの袋の絵が描いてあります。つまり、週1回プラスチックごみを収集します。それが全部土曜日ということになると思います。違うかな。ウイークデーもやるのだっけ。担当がない。私のうちのカレンダーは全部土曜日になっていて、土曜日かもしれません。すみません。間違えていました。土曜日とか、水曜日とか、日を決めて週1回だけ収集します。ただし、袋の値段は黄色い袋の半分になります。ピンクの袋に普通のごみを入れてしまうと困るので、しっかり分別をしていただきたい。

それから、実は2029年度から製品のプラスチックも分別回収になります。バケツとか、子どものシャベルとか、また分別種類が増えますということで、それで分別の基本的な考え方は終了です。

ぜひとも町の皆さんに2026年度からやりますよということを一生懸命宣伝しています。特にしっかり分別をしていただきたいということをお願いしたいと思っています。

取りあえず以上でございます。

《質疑》

住宅供給公社木曽団地自治会

ちょっと勉強不足かもしれませんけれども、熱回収施設は2022年にオープンしているということで、温浴施設というのは入浴できるということですね。これはどのようなシステムというか、料金とか、教えていただきたい。

町田市長

普通のお風呂より少し高いかもしれません、700円。いわゆるスーパーワン銭湯みたいなものでオープンしています。湯上がりのビールも飲めるようになっていると思います。

住宅供給公社木曽団地自治会

時間帯は。

町田市長

10時から21時までやっています。

住宅供給公社木曽団地自治会

町田市バイオエネルギーセンターの近くですよね。

町田市長

町田市バイオエネルギーセンター、清掃工場の向かいに余熱を使ったプールがあって、その隣にお風呂ができます。

○閉会の挨拶（木曽地区町内会・自治会連合会前会長）

町田市 MACHIDA City

Google 提供 検索 音声読み上げ Language やさしいにほんご サイトマップ

暮らし 子育て・教育 医療・福祉 文化・スポーツ 産業・観光 市政情報 事業者の方へ

トップページ > カテゴリ > 住まい・道路 > 交通・交通安全 > 路線バス > 市内公共交通（鉄道、バス）に関するリンク集・お知らせ

ページ番号：707056874

市内公共交通（鉄道、バス）に関するリンク集・お知らせ



更新日：2025年9月8日

お知らせ

バス運転士を募集しています！

バス運転士として、市内のバス交通を支えてくださる方をバス運行事業者の各社において募集しています。
ご興味のある方は、ぜひ各社にお問い合わせください。
詳細は以下リンクからご確認ください。

- [神奈川中央交通株式会社ホームページ採用情報（外部サイト）](#)
- [小田急バス株式会社ホームページ採用情報（外部サイト）](#)
- [京王バス株式会社ホームページ採用情報（外部サイト）](#)

町03系統（町田バスセンター～原町田四丁目～玉川学園前駅）の運行が終了します

町03系統が、運転士不足のため、2025年9月30日（火曜日）をもって運行を終了します。

運行終了系統：町03（町田バスセンター～原町田四丁目～玉川学園前駅）

運行事業者：神奈川中央交通株式会社

運行便数：平日2往復

運行終了に伴い、玉川学園前駅バス停と小田急住宅前バス停が廃止されます。

交通系ICカードによる障がい者割引について

障がい者割引が適用された方向けの交通系ICカード（Suica、PASMO）で、市内の鉄道や路線バス、町田市地域コミュニティバス（玉ちゃんバス、かわせみ号）と小山田桜台・多摩南部地域病院間運行小型バスに乗車する場合、障がい者手帳等を呈示することなく、割引運賃で乗車できます（2023年3月18日から実施中）。



2025年(令和7年)
9/15
第2060号

発行日／毎月2回(1日、15日)

まちだ

今号の
紙面から

●4面 秋の全国交通安全運動が始まります

●8面 「町田市名産品」が決定しました

さあ、バスに乗って！

玉川学園地区を走る地域コミュニティバス「玉ちゃんバス」。
地域コミュニティバスとは、路線バスが走行できない地域での移動手段として運行しているバスです。
「玉ちゃんバス」は市と玉川学園コミュニティバス推進委員会(地域協議会)、バス事業者(小田急バス(株))が協力して運営しています。

問交通事業推進課 724-4260



ここでクイズ!
玉ちゃんバスのルート上に実際にあるバス停は次のうちどれ?
①にぼし山 ②ぬぼこ山 ③かまぼこ山

正解は2面をチェック!

今も未来も大切に
町田市のSDGs



「なんだ かんだ まちだ」
「なんだかんだ言っても、やっぱり町田が一番」と思える、皆さんに愛されるまち、ほかにはないユニークなまちを目指して、まちづくりを進めています。

発行：町田市 編集：政策経営部広報課
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
市役所の代表電話：042-722-3111
市役所の窓口受付時間：午前8時30分～午後5時
ホームページ：<http://www.city.machida.tokyo.jp/>
(記載がない場合の市外局番は(042)です)



町田市
ホームページ

議題3 神奈川中央交通の運転手不足と働き方改革による
減便への対応策について【投影資料2】

2 まちだ 2025年(令和7年) 9月15日

バスに乗ってお出かけしよう!

バスは多くの人を乗せて走る、環境にやさしい乗り物です。今度のお出かけはバスに乗って、市内を巡ってみませんか?

*1 バスが1人を1km運ぶ時の二酸化炭素排出量は、自家用乗用車の半分以下です。*2 市民バス「まちっこ」のバス事業者は神奈川中央交通(株)です。*3 地域コミュニティバス「かわせみ号」のバス事業者は神奈中タクシー(株)です。

問交通事業推進課 724-4260



バス事業者にバス業界の現状を聞く!

市内でバスを運行する神奈川中央交通(株)の運輸計画部・橋山課長にお話を聞きました。



●バス事業の課題

乗務員不足が非常に大きな課題となっています。大型二種免許保有者の減少と少子高齢化により乗務員の採用が難しくなっているとともに

2024年4月に適用された時間外労働の上限規制及び改善基準告示(1日の拘束時間や休息期間の見直し)により、1人の乗務員の労働時間が短縮されたことも一因です。また、バスのご利用者数も新しい生活様式が定着し、コロナ禍前の水準に戻っていません。

●バス事業のやりがい

やはり、人々の生活に密着した公共サービスであることです。あらゆる場面で人々の移動を支える社会インフラの一部であるという責任感・使命感が、やりがいにつながっています。

現在は乗務員不足の影響もあり新規路線の開設は難しいのですが、以前は新たな住宅地や商業施設などができると新規路線を走らせるなど、地域の発展と共に路線を拡大してきました。

●乗務員に興味がある方へ

当社では、新卒の方へ普通自動車免許の取得を支援する「新卒養成運転士制度」や、大型二種免許をお持ちでない方への「大型二種免許取得支援制度」があります。ぜひ多くの方にバスの運転という仕事に興味を持っていただき、仲間を増やしていけたらと思います。

私たち一人ひとりが今後も継続的にバスを利用することができ、公共交通を支えて維持することになり、今だけではなく将来的にも移動の便利さや安心へつながります。



9月20日はバスの日! 関連イベント

●イベントスタジオ(市庁舎1階)

9月16日(火)～19日(金)、午前8時30分～午後5時(最終日は午後3時まで)

内パネル展示、市民バス・地域コミュニティバスの運行案内の配布等



●中央図書館4階大壁面

日程10月8日㈬までの開館日

内バスや乗り物をテーマにした本の特集コーナー、ポスター展示等



バスの日関連イベントの詳細、各バスの運行ルートや運行時刻などの詳細は、市HPをご覧ください。

印2025年9月：機工の監修の印